

## 雪国の植物 ユキツバキ21

# 新潟県におけるユキツバキの分布圏とカエデ属の分布

石 沢 進

新潟県におけるユキツバキの分布圏とカエデ属の分布上の相関を大局的にまとめると、次のように区分できる。  
(左側の写真を参照)

### 水平分布

ユキツバキ分布圏内に分布する種：

ヤマモミジ、ウラジロイタヤ、アカイタヤ

ユキツバキ分布圏外に分布する種：

カラコギカエデ、オニイタヤ、メグスリノキ、ミツデカエデ、エゾイタヤ

ユキツバキ分布圏に接在する種：

ウリカエデ、アサノハカエデ、ウラゲエンコ（ユキツバキの分布限界地に分布）ウカエデ、チドリノキ、ホソエカエデ、カジカエデ

ユキツバキ分布圏に広く分布する種：

ウリハダカエデ、ヒトツバカエデ、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ

### 垂直分布（主に高所に分布している種）

ユキツバキ分布圏外に分布する種：

オガラバナ、ナンゴクミネカエデ

ユキツバキ分布圏に接在する種：ミネカエデ

ユキツバキ分布圏にも分布する種：

コミネカエデ、テツカエデ

### 水平分布からみた類型

#### 1) ユキツバキ分布圏内に分布する種

水平分布からみてヤマモミジ、ウラジロイタヤ、アカイタヤの3種が該当する。ヤマモミジ、アカイタヤは日本海要素の植物であり、垂直分布もほぼユキツバキ圏内にある。ウラジロイタヤは中部日本に分布している種で、県内では下越と県南西部に分布し、中越では分布を欠くので、ユキツバキの分布とは異なっている。しかし、ウラジロイタヤの生育地はユキツバキの分布圏内にある。

#### 2) ユキツバキ分布圏外に分布する種

水平分布から大局的にみてカラコギカエデ、オニイタヤ、メグスリノキ、ミツデカエデ、エゾイタヤはユキツバキの分布圏外に分布している。カラコギカエデはユキツバキと共存しているところは見えない。オニイタヤ、メグスリノキ、ミツデカエデはユキツバキと共存していることもあるので、全くユキツバキの分布圏外に分布する種で

はない。エゾイタヤは主に海岸沿いに分布し、内陸に分布していないので、ユキツバキとの共存していることは少ない。

#### 3) ユキツバキ分布圏に接在する種

ウリカエデ、アサノハカエデ、ウラゲエンコウカエデ、チドリノキ、ホソエカエデ、カジカエデをユキツバキの分布圏に接在する種と類型したが、チドリノキ、カジカエデを除くウリカエデ、アサノハカエデ、ウラゲエンコウカエデ、ホソエカエデは新潟県内では分布地点が稀であり、主に太平洋側に分布していてユキツバキの分布限界地付近に分布している。

チドリノキは県の南西部には多産するが、中部では出雲崎町、加茂市、村松町などに隔離して分布し、ユキツバキとしばしば共存している。カジカエデは太平洋側に分布しているが、県内では3地点ほど生育が確認されており、2地点ではユキツバキと共存している。従ってチドリノキ、カジカエデをこの類型とは別に区分する方が妥当かもしれない。

#### 4) ユキツバキ分布圏に広く分布する種

ユキツバキの分布圏に広くみられる種としてウリハダカエデ、ヒトツバカエデ、コハウチワカエデ、ハウチワカエデがあげられる。ヒトツバカエデは他の3種よりは分布地点が少ないが、広域に生育している。

### 垂直分布からみた類型（主に高所に分布している種）

#### 1) ユキツバキ分布圏外に分布する種

オガラバナ、ナンゴクミネカエデは亜高山帯から高山帯に分布しているので、低山帯に分布しているユキツバキとは分布域を異にしている。

#### 2) ユキツバキ分布圏に接在する種

ミネカエデは亜高山帯から高山帯に分布しているが、しばしば低山帯上部にも生育しているので、ユキツバキの上限付近で共存していることがある。

#### 3) ユキツバキ分布圏にも分布する種

コミネカエデ、テツカエデは低山帯から亜高山帯にかけて分布しているので、ユキツバキとは共存していることがある。しかし、広域にわたってユキツバキと共存していない。